

宮本たかし 県政 NEWS

2020春号
Vol.25

宮本 たかし 事務所

〒915-0876 越前市白崎町73-1-3 3F
電話
ファックス **0778-22-6633**



宮本たかしからのご挨拶

拝啓
春真っ盛りという陽気となって参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症被害が県内にも拡大しており不安は大きくなってきております。一日も早い収束を心から祈っております。と共に最大の防疫は皆様一人一人が「うつらない」「うつさない」を心掛け、自衛して頂くことだと思います。自分のことだと捉え、御尽力頂きますようお願い申し上げます。

県議会では新年度を迎え、当初予算も成立致しました。課題は山積みですが、その解決の為、一所懸命取り組みたく気持ちを新たにしておりますので、今後共、温かい御支援を賜りますようお願い申し上げます。

宮本 俊 敬具



<令和2年度2月当初予算について>

杉本知事が初めて手掛ける当初予算となりますが、北陸新幹線や中部縦貫道路、恐竜博物館などのインフラ投資が膨らんだことも相まって、一般会計で総額**4,872億円**となりました(令和元年度2月補正となる国からの経済対策を含めると5,036億円となり直近10年間の同時期予算としては最大)。SDGsの17項目の目標を意識した予算編成となっています。新型コロナウイルス対策のための補正も同時に可決され内容については後述させていただきます。

(単位: 億円、%)

会計区分	令和2年度 当初予算	令和元年度 6月現計	増 減	伸び率 (%)
一般会計	4,872	4,942	△70	△1.4
特別会計	744	783	△39	5
企業会計	429	383	46	12
計	6,045	6,108	△63	△1.0



以下に気になった事業(予算)について記載いたします(緑文字は私の解説です)。詳細については県のホームページ(https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/zaisei/fukuikenyosan/nigatui1_d/fil/syuyou.pdf)に記載があります。

子どもさんふくいプロジェクト:3億8,000万円／子ども医療費助成事業:10億7,500万円

2人目以降の子どもの保育料等を無料化するなど、経済的負担を軽減。また、子どもの医療費を助成し、子育て家庭の経済的負担の軽減を図る。新たに市町とともに、中学3年生までのすべての子どもを対象に、窓口無料化を実施。

子育て環境日本一を標榜する福井県ですが、従来の3人っ子政策から二人目が無いのに3人目はないという観点から2人目のお子さんをお持ちの世帯を支援していくという事業です。また、医療費の補助についても義務教育期間において全額窓口無料化は日本でもトップクラスの支援となります。しかし、少子化が純粹にお金の問題なのかは疑問であり、各県の動向を調査してみたいと思っています。

儲かるふくい型農業総合支援事業:2億1,700万円

園芸産地の拡大、水田を活用した園芸、スマート農業による水田農業の規模拡大など、儲かる農業経営の実現を目指す取組みを支援。

他の農業IT化事業を含め、大規模集約化し効率的な運営を目指す意欲のある農家を支援するという意図がはっきり表れています。

ふくいワインカレッジ研修事業:590万円

県産ワインの生産者を育成し、県産の「ふくいワイン」による中山間地域の振興を図る。

ワイナリー開業に向け知識習得や栽培・醸造実習を受ける10名を募集する事業です。白山地区安養寺にて実施されますが、課題は多いものの夢のある事業だと考えています。状況をフォローしていきます。

ふるさと企業経営承継円滑化事業:1億円／制度融資・事業承継支援資金:1億530万円

親族および第三者への承継支援を強化するとともに、優れた技術を持つ県内老舗企業の新たな取組みを支援。また、事業承継に必要な資金について経営者保証を不要とする制度融資を創設し、中小企業の円滑な事業承継を図る。

黒字であり事業が順調であるにも関わらず後継者不足で廃業となる企業がみられます。日本全国には起業意識の強い方も多いと思われ、広く後継者を第三者にも求めることは意義がある事業だと考えています。

並行在来線新駅設置支援事業:900万円／並行在来線旅客流動調査・需要予測調査事業:2,637万円

並行在来線の利用促進を図るため、市町が実施する新駅の設置可能性調査に要する経費に対して支援。また、並行在来線開業後の利用者数を予測する調査を実施し、運行計画や収支見直しに反映。

来年度、並行在来線の経営計画が策定されます。いよいよ具体的な並行在来線運営会社の姿が表れてきますが、新駅設置の調査状況を踏まえ、しっかりとフォローしてゆきます。



大河ドラマ「麒麟がくる」情報発信事業:3,250万円

大河ドラマ「麒麟がくる」の放送に合わせ、明智光秀と本県のつながりを発信し、観光誘客につなげる。

明智光秀は本県とのつながりが非常に強かった戦国武将です。ドラマでも舞台を越前に替えての収録が行われているようですが、この事業により全国から旅行者が福井県を訪れて頂けることを祈っています。

長期ビジョン策定・推進事業:747万円

長期ビジョンを県民と策定するとともに、将来像の実現に向けた県民主体の活動を促進。

予算規模はそれほど大きくありませんが、昨年度1年かけて議会と知事部局が議論してきたこの長期ビジョンであり2040年の福井県の将来像を描く重要な事業となっています。2月議会で大詰めの素案が提示され6月議会には議案として提出される予定ですが、議員からは網羅性があるとの一定の評価があったものの「総花的である」「福井県らしさが見えない」との批判が多いのも事実です。私も県が提唱する「とんがりろう、ふくい」の意義について議会にて質問を致しました。

吉野瀬川ダム整備事業:40億1,086万円

本年まで転流工工事(本体着工前の仮設工事)を行ってきた同ダムですが、本年度よりいよいよ本体工事に入ります。流域の治水の為に真に重要なダムですので1日も早い完成が望まれます。

<県政メモ19～新型コロナウイルス対策について>

県では今回の新型コロナウイルス感染拡大防止対策について多様な予算措置をしています。ここでその流れを時系列に追い、その概要を記載します。

① 2月10日 令和元年度予備費*1:1,113万円

・リアルタイムPCR検査機1台 ・検査に関わる試薬200検体分 など

*1 予備費:軽微な補正についてまで議会を招集し審議することは議会運営上非効率であることから、当初予算において使途を限定しない予備費を計上し、軽微な補正について対応。

② 2月17日 令和元年度追加予備費:398万円

・感染の疑いがある患者を診察する6つの感染症指定医療機関(病院)向けに個人防護服などを配備

③ 3月10日 令和元年追加補正+令和2年度補正予算:10億4,300万円

・検査機用追加試薬の購入や新たな医療機関の専門外来設置支援など(2,341万円)
・制度融資・経営安定資金の拡充(9億8,943万円)
・中小企業経営活動緊急支援(コンサルティングなど)事業(2,989万円)

④ 3月26日 令和元年度3月専決予算*2+令和2年度専決予算:5億5,100万円

・人工呼吸器の設置費の支援など(1億4,135万円)
・医療用マスクの一括購入・配布(202万円)
・社会福祉施設などに県の購入した衛生用品を配布(1億75万円)
・感染症の影響により休業・失業し、収入が減少した方に生活福祉資金の貸し付け上限、期間を引き上げ(1億8,700万円)
・学校の臨時休業中における給食費の変換(2,000万円)
・小規模事業者がテイクアウトや配達事業への参入を支援(500万円) など

*2 専決予算:緊急を要するなどの案件に対し知事が議会の承認を経ず予算を執行できる制度。事後の議会にて承認が必要となる

上記のように新型コロナウイルスに対する被害が経済的な事案も含め県内のいろんなところに影響を及ぼしてきていることが分かります。感染の予防には感染者と接触を持たない、持たせないという点が最も重要なわけですが、この点について県は、外出など自粛を「お願いする」というスタンスしか取れないのが現状です。今、日本は緊急事態です。政府は強いリーダーシップを以て実効力のある形でその裏返しとなる補償を含め、封じ込めにあたってほしいと思います。中途半端に感染予防と経済のバランスを取ったやり方を続けていくなら共倒れになる可能性も十分あると考えます。

<2月議会予算決算特別委員会>

前回のこの場での報告以降、毎回、機会には質問の壇上に立っていますが、今回は2月議会での予算決算特別委員会での質問の主なものについて報告いたします。
★が私の質問、☆が知事及び理事者の答弁 □内は私の思いや解説です。

★長期ビジョンにおいて「とんがりろう、ふくい」を提唱しているが、予算、人員など資源を割り振る際にとんがる部分があれば当然へこむ部分もあるはずである。その両方について県政のどの分野が該当するのか所見を伺う。

☆知事:140の新規事業の実施のため、事業の廃止により36億の一般財源を生み出した。人(他の自治体)よりも低くならないように平均的な事業は確保しながらも結果としてとんがる部分を作っていく。

私は従前から予算配分などにおいて重点部分と非重点部分のメリハリをつけることが福井らしさの現出につながると考えています。その意味で非重点部門について聞いてみたかったのですが平均は確保すると明確な答弁は得られませんでした。私も行政マンに非重点はどの分野か伺うことは酷だったかなとは思っているのですが…

★ワンパーク・フェスについて昨年の動員が1万人、経済効果は6億4,000万円ということだが、サカナクションの出演決定という点を加味して今年の状況はどれくらいを予想するのか。

☆交流文化部長:動員数を有料会場の1万5,000人、無料の県庁前広場を含め3万人の集客、経済効果としては約10億円を見込んでいる。

今年は2,400万円の予算を付けて支援するこの音楽フェスですが私もファンであるサカナクションが出演を決め、相当盛り上がっているだろうとの予想から質問しました。この予想が現実となり福井ファンが増えることを祈っています。

★ワンパーク・フェスの参加アーティストやフェス自体と伝統工芸をコラボさせた商品の開発により福井の工芸品の良さを広くPRできると思うが所見を伺う。

☆産業労働部長:アーティストの公式グッズについては所属事務所のロイヤリティーや交渉の時間的制約からして課題は多い。フェス自体の公式グッズについては実行委員会に働きかけ県庁広場での販売を実現させたいと考えている。

有名アーティストのコンサートなどで開演の何時間も前から列を作って購入しているということを知っているので、この動きに福井の伝統工芸も乗れないかということで質問しました。工芸品の売り上げ増加のみならず、県外からたくさんの方がお見えになるので少しでもPRができないかなという意図のもとです。

★社会的養育推進について登録里親の委託率を高めることが重要である。そのため、週末や年1週間だけとか被養育者を受け入れる「ちょこっと里親」を支援する制度を設けてはどうか。

☆健康福祉部長:登録里親のモチベーションの維持は重要だと考える。この「ちょこっと里親」のネーミングも頂けたらと思う(笑)。実際にそういう形での活動も行っているが制度化に向けて準備している。将来的にはフォostリング機関(マッチング機能を有する)を中心に児童養護施設などと一緒に行っていきたい。

せっかく里親に登録していただいているのに実際に稼働していただいている里親が全体の3割ほどとなっています。里親登録から時間がたてばたつほど子ども受け入れの意欲は減退していくのでその維持のためにも必要な政策になるのではないかという思いで提案しました。

残念ながら紙面の関係上、今回「宮本たかしダイアリー」はお休みとさせていただきます。前回のニュース発刊以降も皆様にお見せしたい活動の画像がたくさんあるのですが次号以降にまたお見せる機会を持たせて頂きます。

